

平成 2 5 年 度 事 業 報 告 書

平成 23 年 3 月に神戸市が策定した「神戸市国際化推進大綱」及び平成 24 年 3 月当財団策定の中期経営計画（3 か年）に基づき、神戸の魅力を活かした新たな国際都市を目指し、①開発途上国に対する国際協力事業、②市民の国際交流と多文化共生社会の実現を目指す事業、③留学生支援事業、④海外事務所の運営事業等を重点とし、各種事業を推進した。

事業の推進にあたっては、当財団が持つ人的ネットワーク・情報・ノウハウを活かして、市民、国際協力・国際交流団体、国際機関等との連携強化を図った。また、平成 25 年 5 月より財団事務所を神戸商工貿易センタービルへ移転し、経費の節減を図る一方、広報の強化、図書の貸出しシステムの導入や相談業務に新たにフィリピン語を加えるなど、サービスの向上に努めた。

1. 総 務 関 係

(1) 理事会の開催

	開 催 日	議 決 事 項 等
第 11 回	平成 25 年 6 月 21 日（金）	・平成 24 年度事業報告及び収支決算に関する件 ・評議員会の招集に関する件
第 12 回	平成 25 年 6 月 27 日（金）	・理事長（代表理事）の選定に関する件 ・副理事長の選定に関する件 ・常務理事の選定に関する件
第 13 回	平成 25 年 12 月 6 日（金）	・評議員候補者の推薦に関する件 ・評議員会の招集に関する件 ・定例役員報酬の額に関する件 ・基本財産の運用に関する件
第 14 回	平成 26 年 3 月 24 日（月）	・平成 26 年度事業計画及び収支予算案に関する件 ・基本財産の運用に関する件 ・評議員会の招集に関する件

(2) 評議員会の開催

	開 催 日	議 決 事 項 等
第 6 回	平成 25 年 6 月 27 日（木）	・平成 24 年度収支決算の承認に関する件 ・理事及び監事の選任に関する件
第 7 回	平成 25 年 12 月 10 日（火）	・評議員候補者の推薦に関する件 ・基本財産の運用に関する件

(3) 評議員選定委員会の開催

	開 催 日	議 決 事 項 等
第 1 回	平成 25 年 12 月 17 日（火）	・評議員の選任に関する件

2. 事業関係

【国際協力事業】

開発途上国の行政官等の研修、開発途上国が抱える課題に関する調査・研究、広報啓発及びそれらの国への専門家ボランティア派遣等の事業を行った。

(1) 神戸アジア都市情報センター (AUICK) との連携事業

国連人口基金と神戸市によって設立された任意団体「神戸アジア都市情報センター (AUICK)」と連携して、アジアの9つの中規模都市 (注: AUICK 提携都市) と、各都市の直面する都市問題の解決のため、以下の国際協力事業を実施した。

(注): AUICK 提携都市

チッタゴン [バングラデシュ]、威海 (ウエイハイ) [中国]、
チェンナイ [インド]、スラバヤ [インドネシア]、クアantan [マレーシア]、
ファイサラバード [パキスタン]、オロンガポ [フィリピン]、
コンケン [タイ]、ダナン [ベトナム]

① 都市政策研修事業

AUICK 提携都市の保健行政を担当する上級行政官を神戸に招き、「水と環境」をテーマとして研修を実施した。本研修では、神戸市の施策の紹介及び施設見学、各都市の研修員間の意見交換等を通じて、各都市の抱える政策課題に対するアクションプランを策定し発表した。アクションプランの作成にあたっては、WHO 健康開発総合研究センター (WHO 神戸センター) の協力を得て実施した。

- (a) 研修期間 平成26年1月26日(日)～2月1日(土)
- (b) 主たる研修場所 本財団、WHO 神戸センター及び神戸市内
- (c) 研修内容 「水と環境」
- (d) 参加者数 8人(6都市)

国名	都市名	人数
バングラデシュ	チッタゴン市	1人
カンボジア	プノンペン市	1人
インドネシア	スラバヤ市	1人
フィリピン	オロンガポ市	2人
タイ	コンケン市	2人
ベトナム	ダナン市	1人

②シルバー国際協力ボランティア事業

AUICK 提携都市における人口と開発に関するプロジェクトを支援するため、必要な技術や専門知識を有する行政・企業の退職者等、概ね 60 歳以上の市民を登録し、提携都市のニーズに応じて、現地で技術協力を行うボランティアとして派遣している。

平成 25 年度はスラバヤ市に、過去の派遣（平成 21 年）のフォローアップをするため、日本国際救急救助技術支援会（JPR）の協力を得て、救急・救助の専門家を派遣した。

(a) 登録ボランティア数 26 人（平成 26 年 3 月末現在）

(b) 平成 25 年度派遣 1 回

派遣先	派遣期間	支援内容	派遣人数
スラバヤ市 (インドネ シア)	平成 25 年 9 月 15 日(日) ～ 9 月 19 日(木)	救急・救助に関する 技術支援	2 人

③国際協力啓発事業

AUICK 事業実施により蓄積したアジアの都市政策に関する情報を掲載した機関紙「Asian Cities and People」（英文）を発行し、インターネットのホームページ（アクセス件数：約 7,600 件/月）を通じて広く一般に提供した。

(2) 国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業

①ダナンにおける病院内の体系的な看護師・助産師教育プログラム導入プロジェクト

開発途上国への技術協力事業として、ベトナムのダナン産婦人科・小児科病院を対象として、看護師・助産師の知識・技術の向上を図るため、JICA 草の根技術協力事業（地域提案型）を実施した。

本事業は平成 24 年度から 26 年度の 3 年間、同病院で体系的な看護師・助産師教育プログラムを整備し、実践するための技術支援を行うもので、神戸市立医療センター西市民病院及び神戸市看護大学の協力を得て、看護師、大学教官等の専門家を現地に派遣するとともに、ダナン市から看護師等を研修員として神戸に招いて実地研修を実施している。

平成 25 年度は、専門家を現地に派遣し（2 回）、看護師長・助産師長クラスの研修員の受入（2 回）、副院長含め病院幹部の受入（1 回）を実施し、必要な技術支援を行った。

②ハイフォンにおける港湾物流効率化のための人材育成プログラム【新規】

開発途上国への技術協力事業として、ベトナムのハイフォン港のターミナルオペレーションの効率化・迅速化を支援するため、JICA 草の根技術協力事業（地域経済活性化特別枠）を実施した。

本事業は平成 26 年 1 月から最長 3 年間、ハイフォンポート社との間で、神戸港への研修員受入れ、現地での技術指導を行うもので、みなと総局、神戸港埠頭株式会社及び兵庫県港運協会の協力を得て、専門家を現地に派遣するとともに、ハイフォンポート社から研修員として神戸に招いて実地研修を行う。

平成 25 年度は、専門家を事前調査のため現地に派遣し（1 回）次年度以降のプロジェクトの方向性を協議した。

(3) 国際協力機構（JICA）受託研修事業

JICA が実施する技術協力事業として行われる研修員受入事業を受託し、学術機関、民間企業等の協力を得て実施した。貿易、防災などの分野を中心に研修参加国に神戸市の持つノウハウ等を提供し、国際協力に貢献した。

① 環インド洋経済圏貿易投資促進研修

環インド洋経済圏（注）のアフリカ及びアジア諸国において、貿易投資促進に携わる中央政府またはその関係機関の行政官を神戸に招聘し、国際分業の中で環インド洋経済圏における自国産業の優位性を分析し、貿易投資関係の強化を自国の経済発展に結び付けるための具体的施策の策定とその実現を目指すための研修を実施した。

本年度は新たな試みとして、貿易投資促進に関する民間企業とのワークショップを実施し、研修員が海外からの投資誘致施策等に関するプレゼンテーションや民間企業とのディスカッションを通し、海外企業の直接投資誘致のために果たすべき役割について、新たな視点からの気づきを得られるよう努めた。

（注）環インド洋経済圏： オセアニア、東南アジア、南アジア、中近東及びアフリカまでを含む経済圏。近年、アジア諸国とアフリカ諸国の間での貿易・投資関係が緊密化しつつある。

- | | |
|------------|---|
| （ア）研修期間 | 平成 25 年 8 月 5 日（月）～8 月 23 日（金） |
| （イ）主たる研修場所 | 当財団、JICA 関西国際センター、神戸港等 |
| （ウ）研修内容 | 貿易投資促進に関する日本を含むアジア経済発展の経験や環インド洋経済圏の貿易投資促進等に関する講義及び視察、民間企業とのワークショップ等 |

(エ)参加者数 8人(5か国)

国名	人数
バングラデシュ	2人
エチオピア	2人
ケニア	1人
タンザニア	2人
ザンビア	1人

② コミュニティ防災研修

自然災害多発国において、住民主体の自主防災組織の設立や地域防災活動を推進する中央政府及び地方政府の行政官を神戸に招聘し、平成7年の阪神・淡路大震災の経験や反省を踏まえて始まった神戸市独自の取り組みである「防災福祉コミュニティ(防コミ)」の実例を学び、実践するための研修を神戸市消防局、学術機関、NPO法人の協力を得て実施した。

本年度より高知県訪問を新たに導入し、南海トラフ大地震への備えについての講義、視察を実施した。なお、同研修への参加希望国多数につき、本年度は年2回研修を実施した。

(ア) 研修期間(A) 平成25年10月21日(月)～平成25年11月22日(金)

研修期間(B) 平成26年1月7日(火)～平成26年2月14日(金)

(イ) 主たる研修場所 当財団、JICA 関西国際センター、神戸市消防局、防災福祉コミュニティ、気象庁、岩手県、宮城県、高知県等

(ウ) 研修内容 災害時における「自助・共助」の必要性や「防災福祉コミュニティ(防コミ)」の意義とその重要性を学ぶ講義、防コミ訓練参加、神戸市における防災教育の取り組み、東日本大震災の被災地視察等

(エ) 参加者数

Aコース 17人(12か国)

国名	人数
アフガニスタン	2人
チリ	2人
ドミニカ	1人
エルサルバドル	1人
フィジー	1人

グレナダ	1人
ホンジュラス	1人
ジャマイカ	1人
キリバス	1人
モルドバ	1人
ミャンマー	4人
セントルシア	1人

Bコース 18人 (10か国)

国名	人数
マケドニア	1人
カザフスタン	3人
フィリピン	3人
東ティモール	2人
グアテマラ	1人
ニカラグア	1人
ブラジル	1人
コロンビア	3人
ベネズエラ	1人
マレーシア	2人

③ ベトナム国・首相府能力強化 (PPP 推進) 研修【新規】

ベトナム国の首相府を主な対象として、パブリック・プライベート・パートナーシップ (PPP) 関連法案の素案を作成する計画投資省、国会事務局等の関係機関から幹部職員を神戸に招聘し、ベトナムにおける PPP 推進と法的枠組み整備の参考として、日本や海外における PPP 推進に係る知見と運用の実態について理解を深め、首相府職員等の政策提言能力を強化する研修を実施した。同研修では、日本の中央省庁及び地方自治体関係者、民間企業との意見交換の機会を設け、互いの国の抱える PPP 推進に関する課題等について、積極的な意見交換を行い、PPP 推進のために必要な施策について、研修員の気付きを促すよう努めた。

(ア) 研 修 期 間 平成 25 年 11 月 21 日 (木) ～ 11 月 29 日 (金)
(関西実施期間：11 月 26 日 (火) ～ 11 月 29 日 (金))

(イ) 主たる研修場所 当財団、JICA 関西国際センター、東灘下水処理場等

- (ウ) 研 修 内 容 日本政府の PFI 推進政策に関する講義、神戸市における PPP の取り組みに関する講義、神戸市下水道における PPP の取り組みに関する講義及び視察、こうべバイオガス関連施設の視察、神戸市関係者及び民間企業との意見交換、関空視察と民間移行の経緯に関する講義、神戸港視察等
- (エ) 参 加 者 数 15 人 (1 か国)

【国際交流・多文化共生事業】

外国人市民にとって暮らしやすいまちづくりを進め、多文化共生社会の実現をめざすとともに、市民の国際交流を促進するため、各種事業を実施した。

これらの事業を推進していくため、当財団内で、「神戸国際コミュニティセンター (K I C C)」を運営し、外国人市民のための生活相談や日本語学習支援、国際交流に関する情報の提供や図書の閲覧サービス、国際交流団体への貸会議室の提供などを行った。

○神戸国際コミュニティセンター (平成 2. 5. 29 開設)

- ◆所在地 神戸市中央区浜辺通 5 丁目 1-14 神戸商工貿易センタービル 2F (平成 25. 5. 1 移転)
- ◆開館時間 月曜日～金曜日 10:00 ～20:00、土曜日 10:00 ～17:00
日曜日・祝日及び年末年始(12/29～1/3)は休館

(1) 情報収集・提供事業

①神戸リビングガイドの運営 [25 年度更新回数：59 回]

日本語で十分にコミュニケーションが図れない外国人市民にとって暮らしやすいまちづくりを推進するため、当財団のホームページに、最新の生活情報を 7 言語 (日本語・英語・中国語・韓国朝鮮語・ベトナム語・スペイン語・ポルトガル語) で掲載し、定期的に更新を行った。

○具体的な内容：神戸市内の多言語で相談できる各種窓口、外国人支援団体等に関する情報、行政情報 (健康保険、税金、予防接種、在留資格等) や一般的な生活情報 (電気・ガス・水道、ゴミ出し) 等

②図書コーナー・情報提供コーナー

神戸国際コミュニティセンター内に、国際交流、日本語学習、日本文化紹介等に関する書籍や海外の新聞・雑誌を自由に閲覧できる図書コーナー、当財団が主催・共催する事業や民間の国際協力・国際交流団体等の行事及び行政情報等を利用者に知らせる掲示板、行政や各種国際交流・協力団体の広報物等を置くスペース (ラック) を設置し、幅広く情報提供を行った。

○図書 国際交流、日本語学習、日本文化紹介等 約 3,000 冊

○雑誌 7か国・1地域の海外発行雑誌及びフリーペーパー 30誌

○新聞 9言語 18紙

③日本語学習図書の貸出【拡充】

日本語学習図書などの蔵書をデータベース化し、日本語学習者が KICC 登録カードにより学習図書などの貸出ができるように改善し、さらに、8月から、一度に貸し出せる図書数を1週間2冊に増やした。

○図書貸出数：平成24年度1,120冊→平成25年度2,086冊

④窓口及び電話による情報提供

外国人市民に、生活情報など様々な情報を提供した。

(2) 相談事業 (ワンストップサービス) [25年度実績：842件]

①生活相談 [25年度実績：809件]

センター職員が、外国人市民に対して、多言語による市政や生活の幅広い情報を窓口や電話で提供するとともに、日常生活に関する個別の相談を窓口及び電話で対応した。

○対応言語：8言語（日本語・英語・中国語・韓国朝鮮語・ベトナム語
・スペイン語・ポルトガル語・フィリピン語）

○多言語相談曜日 英語：月～金、中国語：月～金
ベトナム語：月・水、韓国朝鮮語：金
スペイン語・ポルトガル語：火・木
フィリピン語：水（平成26年1月末から）

○相談時間 10:00～12:00、13:00～17:00（月～金の電話は9:00から対応）

②専門相談 [25年度実績：33件]

行政書士が入国在留許可、行政手続などの専門相談を実施した。

○相談日時 毎月第1・3水曜日 13:00～16:00

③生活相談員研修事業

神戸市内及び近郊で外国人市民に対して、多言語による日常生活相談業務を実施している公的団体、外国人コミュニティ、NGOの相談員を対象に、相談員の行政に関する知識等の向上を目指す研修を実施した。

○日時：平成25年11月7日

○内容：「やさしい日本語」

○講師：(特非) 多文化共生リソースセンター東海

○参加者：41人

④外国人相談窓口担当者連絡会(GONGO) [25年度実績：参加団体18団体]

神戸市内及び近郊で外国人市民の生活相談を行っている公的団体及びNGOの担当者の知識や技術向上のため、隔月で専門家の講義を受けるとともに情報交換を行った。

なお、平成25年度から、「ひょうご国際交流団体連絡協議会」を構成する県内の国際交

流協会等もオブザーバー参加することにより、県内市町の国際交流協会との連携も深めることができた。

(開催概要:年6回)

開催年月	テーマ	講師
平成 25 年 5 月	外国人住民への住基カードの配布	神戸市市民参画推進局 区政振興課
平成 25 年 7 月	外国人をめぐるトラブルや犯罪	兵庫県警察本部外事課
平成 25 年 9 月	国民健康保険制度	神戸市保健福祉局 国保年金医療課
平成 25 年 11 月	外国人の生活保護	神戸市保健福祉局保護課
平成 26 年 1 月	雇用保険制度	神戸公共職業安定所
平成 26 年 3 月	外国人DV被害者相談の現状	兵庫県女性家庭センター

(3) 通訳翻訳支援事業

①三者通訳事業 [25年度実績:67件]

区役所に日本語で十分にコミュニケーションが図れない外国人市民が来庁した際に、区役所職員からの依頼に基づき、電話による三者通訳(区職員・相談者・K I C職員による三者通話)を実施した。

○対応言語:6言語(英語・中国語・韓国朝鮮語・ベトナム語・スペイン語・ポルトガル語)

②同行通訳事業 [25年度実績:27件]

日本語で十分にコミュニケーションが図れない外国人市民が区役所や市内の公的機関で相談等を行う際に、善意通訳団体と協働で通訳者を無料で派遣する同行通訳(要事前予約制)を実施した。

○対応言語:6言語(英語・中国語・韓国朝鮮語・ベトナム語・スペイン語・ポルトガル語)

③行政情報の多言語翻訳

神戸市の各部局や外郭団体等の依頼に基づき、市国際交流推進部と連携して、市政情報についての多言語翻訳やネイティブチェックを行った。

(主な例)

- ・住民票コード通知書の記載内容説明の翻訳
 - ・福祉医療費制度の案内の翻訳
 - ・トイレの多言語表示の翻訳
 - ・神戸市営住宅の案内の更新の翻訳
 - ・児童扶養手当の制度改正の内容の翻訳
 - ・転入・転出・死亡など、住民情報関連届出のご案内の翻訳
 - ・妊娠出産に関するQ&Aの翻訳
 - ・路上喫煙禁止地区などの翻訳
- など

④災害時通訳翻訳ボランティア事業 [登録者：90人 平成26年3月末現在]

日本語で十分にコミュニケーションが図れない外国人市民は、大規模災害時に災害弱者となるため、災害時に避難所・区役所などで通訳・翻訳などの支援活動を行う「災害時通訳翻訳ボランティア」の募集・登録・研修等を実施した。

(主な活動)

○防災エクスペリエンスツアー（平成25年10月19日開催，参加者：72人）

通訳ボランティアが外国人市民へ通訳をしながら、両者が一緒に、防災や救急に関する講習の受講や、防災ゲーム・ワークショップに取り組むことで、外国人市民の防災及び救急に関する知識の習得、災害時に外国人を支援できる人材の研修を実施した。

○長田区防災訓練（平成25年12月1日，通訳者：2人，外国人市民10人）

ベトナム人コミュニティの協力により、外国人市民が参加し、応急手当や消火訓練など、より実践的な訓練を行うとともに、留学生が事前に資料の翻訳と訓練時の通訳を行った。

○登録時研修（平成26年2月2日開催，出席者：13人）

○外国人向け市民救命士講習会（平成25年8月29日，通訳者：2人）

(共催事業)

また、近畿地域の地域国際化協会8協会で災害時のボランティアの相互派遣等の支援協定を締結しており、ボランティアの訓練・研修を共催で実施した。

○大阪国際交流センター主催「やさしい日本語による災害時の情報提供」

（平成25年7月14日開催，参加者：職員1人、ボランティア5人）

○兵庫県国際交流協会主催「ひょうご安全の日防災啓発事業」

（平成26年1月17日開催，参加者：1人）

○京都府国際センター主催「現地災害多言語支援センター設置運営訓練」

（平成26年1月26日開催，参加者：ボランティア2人）

○滋賀県国際協会主催「災害時外国人支援ボランティア通訳スキルアップ研修」

（平成26年1月18日開催，参加者：1人）

○ひょうご国際交流団体連絡協議会主催

「外国人への防災意識啓発～やさしい日本語の視点から～」

（平成26年2月25日開催，参加者：職員2人、ボランティア5人）

⑤多言語サポーター 【新規】

外国人市民に対する通訳支援を充実させるため、災害時通訳翻訳ボランティアや日本語文化サポーターを対象に、特に KICC で常時対応できる英語中国語以外の言語の、平常時の通訳や翻訳の支援を行う新たな「多言語サポーター」制度を設け、募集を開始した。

○登録者数：16人

○登録言語：イタリア語、インドネシア語、韓国朝鮮語、スペイン語、タイ語、ドイツ語、フィリピン語、フランス語、ポルトガル語 計9言語

(4) 国際交流ボランティア事業

①日本語文化サポーター事業

日本人サポーターにより、外国人市民に対し、日本語及び日本文化（華道・書道）をマン・ツー・マンで教える活動を実施し、外国人市民の日本語学習等を支援するとともに、市民レベルの国際交流を促進した。

また、当財団の神戸商工貿易センタービルへの移転にあわせて、全ての登録ボランティアに対し、再登録確認を行うとともに、「国際交流ボランティア」を「日本語・文化サポーター」と改称したうえで、一定の日本語の指導能力を登録条件に追加するなど、サポーターのレベルアップを図った。

○登録者数：平成 25 年度末現在 656 名

○活動実績：月平均 251 組、のべ年間活動時間：約 12,100 時間

②カウンターボランティア [登録：23 人及び 1 団体、のべ年間活動時間約 2,500 時間]

KICC のカウンター窓口案内業務について、有志の個人登録ボランティアとボランティア団体の会員で行うことにより、KICC の運営に協力していただくとともに、市民レベルの国際交流を促進した。

(5) 日本語サポーターのスキルアップ等育成事業

①日本語サポーター入門講座 [25 年度実績：7 回コース 2 回 参加者計 60 人]

日本語を教えるボランティアに基本的な日本語の知識と教授法を講義形式で教える初級の研修を開催した。

②日本語サポーター実践講座 [25 年度実績：8 回コース 参加者 30 人]

中級者以上の日本語ボランティアのスキルアップのため、講義だけでなく実習を取り入れた実践的な教授法の研修を開催した。

③他団体との連携事業

(ア)「こうべを楽しもう」の改訂

兵庫日本語ボランティアネットワークと協働で、平成 19 年度に作成した日本語学習テキスト「こうべを楽しもう」について、テキスト内容を改訂した。

(イ) 日本語教室「こうべを楽しもう」開催

兵庫日本語ボランティアネットワークと共催で、外国人市民に対して、日本語初級者向け及び中上級者向けの日本語教室を開催した。

○初級：9 月 3 日～12 月 10 日、計 15 回、のべ 112 人参加

○中上級：9 月 4 日～12 月 11 日、計 15 回、のべ 144 人参加

(ウ) 日本語学習支援に関する講演等の開催

神戸定住外国人支援センター (KFC) と共催で、日本語学習支援に関する講演等を開催した。

○日本語学習支援者研修会「自律学習・日本語学習記録簿について」

講師：大阪大学大学院教授

平成 25 年 12 月 14 日開催、参加者数：42 人

○日本語教室連携シンポジウム

講師：大阪大学大学院教授、KFC 日本語コーディネーター、市国際交流推進部

平成 26 年 2 月 15 日開催、参加者数：52 人

(6) 市民レベルの国際交流事業

①神戸国際交流フェア

神戸市を中心に活動している国際協力・国際交流団体が、相互連携と交流を深め、活動内容を広く市民に紹介し、活動への参加を呼びかける機会とするとともに、市民の異なる文化・伝統への理解を促進するため開催した。

- ①開催日 平成26年3月15日(土)・16日(日)
- ②会場 15日：神戸市勤労会館
16日：ハーバーランドスペースシアター
- ③内容 15日：外国人スピーチ大会(発表者7人)、
世界のこどもたちの今(トーク:3人、写真展示)
交流パーティー
16日：ステージイベント、飲食・物販及びブース展示、
世界の民族衣装の体験コーナー
- ④参加協力団体 53団体
- ⑤参加者 2日間計約15,000人

②多文化交流会

日本人・外国人の市民に対して、各種の講演会や交流会を開催した。

- 当財団移転記念講演会「ダイアンから見た日本」
(平成25年5月25日開催, 参加者:78人)
- 外国人市民を対象とした、日本での生活・文化に関する講演会
 - ・ゆかた着付け講習会(平成25年7月10日開催, 参加者:13人)
 - ・市民救命士講習会(平成25年8月29日開催, 参加者:17人、通訳者:2人)
 - ・いけばな体験講座(平成25年11月27日開催, 参加者:10人)
 - ・書道体験講座(平成26年1月28日開催, 参加者:8人)
- 外国人市民による自国を紹介する講演会
 - ・「カナダ大使の公開講座」(平成25年6月12日開催, 参加者数:87人)
講師:駐日カナダ大使
日本カナダ会主催、KIC 共催
 - ・「トルコの魅力を語る」(平成25年10月5日開催, 参加者数:41人)
講師:神戸トルコ友好協会会員
- 外国人学習者と日本人サポーターとの交流会
平成25年7月4日, 9月25日, 12月4日, 平成26年2月27日計4回開催,
参加者数:計61人
- KICC 市民講座・JICA 出前講座「中南米の魅力」
平成25年10月24日開催、参加者:17人
- 日本語学習支援に関する講演会(再掲)
神戸定住外国人支援センター(KFC)と共催で、日本語学習支援に関する講習会を開催した。
 - ・日本語学習支援者研修会「自律学習・日本語学習記録簿について」
 - ・日本語教室連携シンポジウム

- 留学生異文化サロン（P18 再掲）
 - ・中国（テーマ：「故郷自慢」）
 - ・メキシコ（テーマ：「死者の日」）

（7）国際協力・国際交流事業助成 [25 年度助成実績：13 件]

神戸市内での国際協力・国際交流事業の促進のため、国際協力・国際交流事業を行う団体が主催し、市内で実施される市民啓発等を目的とした事業に、対象事業費の 1/2 以下、10 万円以内で助成を行った。

また、これら団体が実施する事業に対する共催や後援名義付与等も行った。

（8）会議室提供事業

国際交流・国際協力団体に対して、低廉な使用料で会議室を貸し出した。

（有料使用団体数：6 団体、使用回数：79 回）

【留学生支援事業】

神戸市奨学金を支給する留学生の選考及び奨学生に対するフォローアップ、留学生住宅の提供や市内の文化施設見学支援などを実施し、神戸と留学生の母国との交流の架け橋となる人材育成を推進するとともに、市民の国際理解の促進を図った。

（1）奨学生事業

①奨学生の選考

神戸市内の大学に在籍する開発途上国等からの私費留学生より 30 人を選考した。

（ア）奨学金名 神戸市留学生奨学金（神戸・菅原奨学金）

（イ）支給額 月額 8 万円

○奨学金は篤志者からの寄付金からなる基金を原資に神戸市で
予算措置し、神戸市から奨学生に直接支給。

（ウ）支給者数 30 人

平成 25 年度支給者内訳

大 学：4 大学（神戸大学 20 人、神戸市外国語大学 7 人、兵庫県立大学 2 人、
神戸学院大学 1 人）

出 身：3 か国・1 地域（中国 27 人、韓国 2 人、メキシコ 1 人）

②奨学生関連事業

(ア) 市民との交流機会の提供

(a) 奨学生が自国文化を市民に紹介する行事「留学生異文化サロン」を2回開催した。

・中国（テーマ：故郷自慢、開催時期：11月16日、会場：KIC、奨学生7名、来場者：約20名）

・メキシコ（テーマ：死者の日、開催時期：11月30日、会場：KIC、奨学生1名、セミナー参加者：約10名、展示鑑賞者：約35名）

(b) シルバーカレッジの学生との交流会（陶芸教室）を実施した。

（開催時期：10月10日、会場：シルバーカレッジ、奨学生14名、カレッジ学生：15名）

(c) 姉妹都市等との交流事業への参加を図った。

韓国・大邱市との青少年交流事業（奨学生：2名）

韓国・光州市との芸術交流（神戸ビエンナーレ）（奨学生：3名）

中国・天津市との姉妹都市交流事業（奨学生：1名）

(d) 民間団体等の交流事業への参加を図った。

多文化交流カフェ（中央区が事務局）（開催時期：2月16日、奨学生：4名）

(イ) 奨学生OB・OGへの情報提供

奨学生の会報「夢 in KOBE」及び奨学生名簿を作成・送付した。

(ウ) 奨学生OB・OG等をホームページで紹介

市民の留学生事業への理解促進のため、元奨学生の近況や行事等をホームページで紹介した。

(2) 留学生住宅支援

神戸市内の大学に在籍する留学生に対し、住宅を借り上げ、低廉な家賃で住宅を提供した。

(ア) 家族用住宅

(a) 戸数：20戸（ポートアイランド：都市再生機構所有）

(b) 家賃：私費留学生 40,000円 国費留学生 49,000円

(c) 入居状況：年間平均 7戸（2大学、5か国・地域）

(イ) 夫婦用・単身用住宅

(a) 戸数：92戸（夫婦用：15戸、単身用：77戸）

神戸留学生会館（西区学園都市：神戸すまいまちづくり公社所有）

(b) 家賃：夫婦用 私費留学生：39,000円 国費留学生 45,000円

単身用 私費留学生：24,000円 国費留学生 30,000円

(c) 入居状況：年間平均 72室（6大学、10か国・地域）

(3) 文化施設見学の支援

神戸市内で学ぶ留学生の神戸の理解促進と留学生生活の充実を図るため、当財団と公立及び民間の文化・社会教育施設等（39施設）が連携して、留学生とその家族が無料で施設見学できるパス（はっぴいめもりーパスKOB E）を発行した。

（約 5,000 枚／年）

(4) その他

就職活動の支援

民間国際交流団体が実施している留学生の就職セミナーを共催し、主に会場の提供や事業の広報等を行い、留学生の就職活動に対する支援を行った。

第1次「神戸ジョブフェア」

開催日：6月15日・22日・29日、7月6日・13日・20日 計6回開催

参加留学生数：43人、参加企業：16社

第2次「神戸ジョブフェア」

①ゼミナール 開催日：10月24日 ②フォーラム 開催日：11月17日

参加留学生数：延べ26人 参加企業数：延べ27社

【海外事務所の運営事業】

神戸市から運営を受託しているシアトル事務所や当財団の天津及び上海の各海外事務所において、経済交流、企業誘致、観光客誘致、シティセール、ポートセールス及び姉妹（友好）都市交流等の事業を実施した。

(1) 神戸市シアトル事務所（1961年開設）

- ①姉妹都市交流事業
- ②企業誘致活動
- ③各種情報の収集・提供、連絡調整

(2) 神戸・天津経済貿易連絡事務所（1985年開設）

- ①友好都市交流事業
- ②中国企業の神戸進出誘致、地元企業の進出等のサポート

③各種情報の収集・提供、連絡調整

(3) 神戸・上海経済港湾連絡事務所 (2006 年開設)

- ①都市間交流促進事業
- ②船社・貨物・客船の誘致
- ③ビジネスチャンスの創出及び企業支援
- ④観光客誘致、地場産業等のプロモーション
- ⑤各種情報の収集・提供、連絡調整

※平成 25 年 11 月～ 業務休止

【その他の事業】

(1) 神戸アジア交流プラザの運営 (平成 12. 7. 20 開設)

アジアを中心とした地域の情報・文化の交流拠点として、神戸市長田区の施設を借上げて、民間国際交流団体に管理・運営を委託し、外国人市民への情報提供や各種国際交流事業を実施した。

- ◆所在地 神戸市長田区細田町 7 丁目 1 番 9 号 シューズプラザ 4 階
- ◆開館時間 平日・土曜日 10:00 ~17:30
水曜日・日曜日・祝日及び年末年始(12/29~1/3)は休館

①窓口及び電話による情報提供

外国人市民に、生活情報など様々な情報を提供した。

②語学サロン [25 年度実績：3 講座 参加者 17 人]

タガログ語、トルコ語、アラビア語の講座を実施した。

③グローバルセミナー [25 年度実績：4 セミナー 参加者 64 人]

成長著しいアジア諸国からの留学生等が、自国の発展とその課題について講演し、参加者とも積極的に議論した。

④市民国際交流講座 [25 年度実績：2 講座 参加者 41 人]

アジア文化の実技講座 (中国民族楽器「フルス (ひょうたん笛)」演奏など) を実施した。

⑤海外文庫読書サロン [25 年度実績：1 講座 参加者 23 人]

海外の文献を収集・閲覧し、それらの文献を用いた講座を開催した。

⑥児童国際理解教育 [25 年度実績：市内の児童館 36 か所]

市内の児童館 (各区 4 か所程度) に留学生等を派遣し、児童に母国の説話、遊戯、

歌唱を紹介し、児童の異文化への理解促進を図った。

⑦地域行事への参加

地域の行事である「三国志祭り」に中国人留学生の参加を呼びかけて、地域住民と留学生の交流促進を図った。

(2) 日本語教室の開催支援

当財団では、神戸国際コミュニティセンターで日本語ボランティアにより、外国人市民の日本語学習の支援を行っているが、三宮の同センターに来所できない外国人市民の利便を図るため、東灘区と長田区で、民間の国際協力・国際交流団体が、低廉な受講料で、開催している日本語教室に助成を行った。

(3) NGOとの連携による国際協力事業

カンボジアにおける「防災システム モデル地区」創設事業

NGO団体の日本国際救急救助技術支援会（JPR）と連携し、自治体国際化協会の助成を受けて、24年度よりカンボジアの首都プノンペンの経済特区に、これまでJPRが同国で育成してきた災害対応のための人材・機関を活用し、「防災システムモデル地区」の創設に取りかかった。25年度、特区内の日本企業を中心に「消火器の使用訓練」や「消防設備の点検要領の指導」、「消防計画の作成指導」、従業員2,500名が参加した「避難訓練」などを行った。また、カンボジアより研修員6名を受入れて、現地隊員のスキルアップと指導力の向上を図った。

(4) ホームページの運営

当財団の実施事業や行政・生活情報（神戸リビングガイド）、国際協力・国際交流団体が開催する事業の情報等をインターネットで提供した。

平成24年度からは各担当者による随時更新に加え、情報の漏れがないように定期的に総合的なチェック・更新を実施し、迅速かつ正確な情報提供に努めた。

（25年度アクセス件数：約17,000件／月）

(5) 神戸市外国語大学との連携事業

相互の人的・知的資源や施設の有効活用を図り、相互に有意義と認められる事業を行うことにより、一層の国際協力・交流の充実及び地域貢献の進展に資することをめざして、連携協力に関する協定を平成24年4月に締結し、同大学と連携して事業を行った。

（実施事業）

- 神戸国際交流フェア 2014 において、学生ボランティアが事務局に参画
(学生数：3 人，企画運営会議への出席，体験コーナーの運営など)
- 同大学のオープンセミナー（市民講座）の開催
 - ・前期：平成 25 年 6 月 6 日～27 日間の毎週木曜，受講者数：13 人
 - ・後期：平成 25 年 11 月 1 日～22 日間の毎週金曜，受講者数：4 人
- 同大学日本事情授業「華道教室」の開催（平成 25 年 12 月 5 日，参加者数：10 人）

(6) 共催事業

第 34 回神戸市長杯バイリンガルスピーチコンテスト

- ①開催日 平成 25 年 11 月 17 日（日）
- ②会 場 神戸外国倶楽部
- ③内 容 市民の国際理解を図るため、日英 2 か国語によるスピーチコンテストを、神戸クロスカルチュラルセンターと共催で実施した。

(7) 関西領事団支援

在関西の各国総領事館・名誉総領事館が構成員となっている関西領事団神戸事務所の運営を支援するとともに、同事務所を通じて神戸市の情報の発信等を行った。

中期経営計画（平成 24 年度～26 年度）数値目標達成状況

指標の項目	24 年度実績	25 年度実績 (目標達成率)	平成 26 年度 目標値
①開発途上国からの研修員の 受入れ人数	110 人	82 人 (91.1%)	90 人
②ボランティアによる日本語等の 学習者数	1,637 人	1,628 人 (90.4%)	1,800 人
③日本語ボランティア養成講座等 受講者数	115 人	90 人 (100%)	90 人
④国際交流フェア参加団体数	56 団体	53 団体 (88.3%)	60 団体
⑤異文化交流イベント開催件数	11 件	16 件 (100.6%)	15 件
⑥神戸国際コミュニティ センター来館者数	58,192 人	41,990 人 (69.9%)	60,000 人
⑦神戸アジア交流プラザ来館者数	21,088 人	20,577 人 (85.7%)	24,000 人
⑧ホームページのアクセス件数	14,500 件/月	17,000 件/月 (130.7%)	13,000 件/月